飯田学大学プログラム

メタバースを利活用した社会教育の方向性（16時15分～17時10分）

The role of subconscious mind in social education

儀間敏彦（ぎま　としひこ）Toshihiko Gima[1,*] , Tokai University,
東海大学　教育開発研究センター　[1]Center for Educational Research and Development
〒259-1292　神奈川県平塚市北金目 4－1－1
4-1-1 Kitakaname, Hiratuka-city Kanagawa-Pre 259—1292, Japan
* Corresponding author: gt067955@tsc.u-tokai.ac.jp

Abstract. The purpose of this paper is to present the marketing process innovation for social education through the introduction of economic theories such as German commercial function theory, institutional theory, and capability approach.

In the first place, social education is an educational approach to promote the development and growth of individuals and communities. German commercial function theory is an economic approach that emphasizes the relationship between society as a whole and individuals. Frogs Co., Ltd., located in Okinawa, has built a new social education system for children who will support the future economy. The company advocates the importance of children's non-cognitive abilities and self-esteem.

Institutional theory is an approach that is considered how entrepreneurship would work within the system that people have made and what kind of results those actions lead to. Also Ikigai Co., Ltd., located in Akasaka, Tokyo, provides people with opportunity of social education with an entrepreneurship through taking the National Examination for Fire Defense Equipment Officer Category Otu 6. President Terui says that he wants those test takers to have (build) “self-confidence” through taking the National Exam.

In the capability approach, it is known as the analytical framework of human development (social education) and welfare. The capabilitiy approach emphasizes human capabilities, emphasizing self-determination, social justice and fairness, and multiple perspectives and participation in society. Mr. Ishihara who lives in Okinawa has developed over 10 municipalities and 20 items of “regional order products”, and the cumulative sales exceed 1 billion yen. Self-esteem is the acknowledgment of the possibility of whether or not one has the capability to achieve a certain goal.

Compared to children in other countries, Japanese children have low self-esteem, which is an issue from the perspective of social education. The development of non-cognitive abilities and their visualization are important for the marketing process innovation model of social education in Japan.

Keywords: german commercial function theory, institutional theory, capability approach

英語原稿は、2024 年 3 月末に島根県松江で行われる国際会議への投稿原稿（概要）である。

今回、学輪 IIDA 全体会では、実務的な側面から、「メタバースを利活用した社会教育の方向性」と題して、思考のとらえ方の話や、潜在意識、顕在意識、リアルとバーチャルの居場所づくり、などについてふれる。

私は、個人的に、中学校時代から大学、大学教員の時代に至るまで、バレーボールに打ち込んできた。バレーボールを通して学んだことは、潜在意識との付き合い方であり、目標設定である。潜在意識は、主語がはずれる。この認識は、とても大事である。

「誰々は、」「ダメだ」と選手の批判ばかりをしていると、「誰々は」という主語がはずれ、「ダメだ」という批判ばかりが潜在意識に入っていく。そして、潜在意識のコップがあふれてくると、いずれ、まわりからは、「お前はダメな選手だ」と自分にかえってくる。潜在意識との付き合い方は、いまの教育にとっても、人生設計においても、とても重要である。自分や相手を強くジャッジ（批

判）しないことが社会的にも個人的にも求められている。

また、中学時代には、沖縄県大会で優勝、大学では、その後、卒業したメンバー達が実業団や国体など、全国大会で連続 13 回優勝という偉業をなしとげた。実体験をとおして、後になって、スポーツメンタルトレーニングなどの手法を勉強していたら、成功には法則があって、目標設定とその実現プロセスについての教育理論があることに気づいた。いま、将棋の藤井総太やプロ野球選手の大谷翔平などの偉業などが話題となるが、私が関心があるのは、その教育理論であり、メンタルトレーニングの具体的方法である。

大学院に進学して、ドイツ商業機能論の鈴木武先生との出会いがあった。鈴木武先生からは、社会有機体観と原子論的社会観の世界観を教えてもらった。前者は、すべてを命、生命体ととらえる考え方、後者は、すべてを部品、機械ととらえる考え方である。高度成長期においては、後者に比重がおかれ、公害問題などで、人間の命が軽視された。アジアではじめてノーベル経済賞を受賞したアマルティアアセン教授のケイパビリティアプローチは、私がこよなく愛する社会科学におけるアプローチである。仏教における「慈悲の心」に近い考え方と思っている。

今回、儀間ゼミがテーマとする「メタバースを利活用した社会教育」は、地域にある生涯教育センターなどを利活用して、沖縄県、熊本県大津市、あるいは、長野県飯田市と、リアルに、ヨコ展開させる内容を指す。いまの若者にかけている「自己肯定感」を高める方向で、社会教育にとりくみたい。

世代間交流（高齢者と子供たち）というタテ展開とあわせて、最終的には、地域の子どもたちや若者たち住民たちが自らの土地の歴史や文化を国内や、国際会議のメンバー達にも話して、世界に、発信する。いわゆる「認知革命」であり、新しいコミュニティづくりの居場所づくりと思っている。

地域間交流と世代間交流といういわば、タテとヨコで、プラス思考的発想で取り組む。

具体的に考えていることは、こどもたちが、地域の親善大使となる「チャイルドアンバサダー構想」である。今回、学輪 IIDA 全体会での、儀間ゼミを通して、「メタバース」の空間を、実際に楽しんで、生涯学習の契機になれば、と思っている。

当日、配布資料は、紙媒体ではなく、データでの配信をする。

検索する際のキーワードはひらがなで、「ぎま　としひこ（ぎま　スペース　としひこ)」、

URL では、(https://richardgima.com/)、でアプローチしてほしい、と思う。